

平成 30 年度 現地研修会を開催

1. 研修概要

道北技術士委員会では、毎年の活動の一環である現地研修会を開催しました。以下にその概要を報告します。

(1)日時：平成 30 年 9 月 27 日(木)
8：30～18：00

(2)場所および講師

- ①道総研 林産試験場(旭川市)
企業支援部 普及連携グループ 阿部 氏
- ②かなやま湖口グホテルラーチ(南富良野町)
- ③金山ダム(南富良野町)
金山ダム管理支所 支所長 赤坂 氏
- ④空知川上流域太平橋付近 28 年度決壊箇所
札幌開発建設部 空知川河川事務所
副所長 野嶽 氏

(3)参加者 15 名

2. 道総研 林産試験場

道総研林産試験場は昭和 25 年に道内木材産業の支援のため設立され、林産物の高度な利用に向けた研究開発を行っている。現在では環境問題の顕在化、森林・林業に対する社会的ニーズの多様化など、研究をめぐる背景は大きく変化しており、このような状況のもとで木材産業の発展と道民生活の向上をめざして、実用的研究を進めている。

研究領域は以下のように多岐にわたる。

①木材・木製品の生産と流通の高度化

国産材の利用機運は高まっているものの、建築用材の道産材の自給率は 2 割程度である。輸入製品や非木質材料に対して、性能・品質、コスト、供給量等で競争力のある製品開発が必要な市場性の高い木製品と、製品を効率的に生産できる機

械・装置等の研究開発。

②木材・木製品や木質構造物の安全性、信頼性、機能性向上。

安全で合理的な木質構造物を評価・設計する技術、木製品の耐久性、耐火性の評価・向上技術、木材・木製品の機能性評価技術の研究開発。

③森林バイオマスの総合利用の推進

環境負荷の低い改質や変換技術、シラカンバ等を原料とする粗飼料生産などニーズに対応した成分利用技術の研究開発、FIT(固定価格買取制度)の導入により対応が求められる木質バイオマスの安定供給など、エネルギー利用技術の研究開発。

④きのこの価値向上

機能性や食味に優れたきのこの生産技術とその利用技術の研究開発。



写真-1 加工機械を使った木工作品



写真-2 木と暮らしの情報館

3. かなやま湖ログホテルラーチ(南富良野町)

かなやま湖を見下ろすカラマツ林に囲まれた閑静な佇まい、北海道産カラマツ(LARCH)材を使用した本格的ログホテル&コテージである。



写真-3 ランチ(大好評)

4. 金山ダム

金山ダムは空知川上流約96キロ地点に洪水調節、農業用水の供給、水力発電、水道用水の供給を目的に昭和27年に予備調査着手、昭和34年実施計画調査着手、昭和36年建設事業着手、昭和42年9月に完成した。

内部に空洞を持った中空重力式ダムで北海道唯一の珍しい形式のダムとなっている。



写真-4 管理支所



写真-5 中空重力式ダム内部

管理支所では、平成28年度の洪水被害時の洪水調節対応、また9月6日の胆振東部地震に伴う発電対応についての説明を受けた。ダム内部から中空

重力式ダムの形状を見ることができた。

5. 空知川上流域太平橋付近平成28年度決壊箇所

平成28年度台風第10号の接近に伴う8月29日から31日にかけての大雨により、空知川上流域では、12時間雨量292mm/12hを記録し、観測史上最大雨量であった。この降雨により、空知川の水位が急激に上昇し、決壊へと至った。氾濫流は堤内側の農地部に広く拡散し、南富良野町市街地に向かい流下した。ポテトチップス工場の被災も大きく報道された。

当時の空知川河川事務所の緊急対応についての説明を受けた。



写真-6 被災時状況

また、緊急復旧工事後の本復旧工事についての説明を受けた。現在は本復旧工事も完了している。

おわりに

今回の見学については、28年度洪水被災関連施設を中心に行う主旨として準備を進めていた折に、9月6日の胆振東部地震とそれに伴う全道全域におけるブラックアウトが発生したこともあり、図らずも過去の災害とともに直近の災害についても考えさせられるものとなった。

改めて防災施設の有用性、被災時の対応には技術力や人的資源の維持と向上が不可欠であること、官民の技術力連携が重要と感じられた。

災害対応のため参加者が例年より少ないことに加え、旭川中心地から南富良野と長距離移動であったものの、大変有意義であったとともに、お世話になった関係機関に謝意と敬意を表します。